

サンセイランディック大阪便り Vol.21

平成25年9月号

不動産

よもやま話

今年はまだまだ暑い日が続いておりますが、9月です。古くは長月とも呼び、月の美しさと伸びつつある夜の長さが、秋の訪れをほんの少し感じさせてくれます。さて今月は少し趣向を変えて、不動産よもやま話として、「文化住宅」についてお話させて頂きたいと思っております。

関西で古い集合住宅の呼称として一般的なのが「文化住宅」ですが、これは関西特有の呼び方だそうです。実際、弊社の東京本社の社員には通じないこともしばしばです。

なぜ「文化住宅」と呼ばれるのかは、それまでの集合住宅の多くがトイレや台所を共用としていたのに対し、これらの設備を各住戸に独立して配置したことから、従来の集合住宅よりも「文化的」だというのが理由だそうです。

多くが瓦葺の木造モルタルの2階建てで、現在残っている文化住宅のほとんどは1960～1980年頃に建てられたものです。スタンダードな間取りは、玄関から台所と和室が一直線に並んでいて、奥にもう一部屋和室、その奥はトイレとお風呂、又は風呂無しトイレだけ、といった感じでしょうか。古いドラマの再放送などでもよく見かける間取りで、想像に難くないと思います。

近年では空き部屋が目立ち、また耐震の面でも問題が多く、文化住宅が密集した地域の再開発が、老朽化に伴う建て替えとも絡んで課題となっているようです。

古い建物ですからデメリットばかりのようにも思いますが、実はメリットも多く、何ととっても家賃と保証金が安い、駅近くに残っている文化住宅は生活に便利。これは助かります。また防犯の面でも安心！？一般的に文化住宅には防犯設備は付いていません。しかし大阪名物「近所のおばちゃん」が不審者にニラミを効かせてくれます。

弊社では、底地の他にもこういった昔ながらの空き部屋が目立つ「文化住宅」の買取りも行っております。宜しくお願い致します。

大阪の文化住宅→



社員の 独り言

まだまだ猛暑が続いておりますが、皆様、お盆休みは如何お過ごしでしたか？

弊社でも8月10日～18日の9日間、夏季休暇がありました。お休みを利用してお出かけされた方も多かったと思いますが、私はといいますと、趣味のカポエイラ教室（ご存知ですか？ブラジルの格闘技です。）でレッスンを受けたり、滋賀県にある妻の実家でゆっくりと過ごしたりしました。

また今回の帰省では、初めて琵琶湖の湖水浴場に行ってきました。海と比べてベタベタせず、快適に楽しめたので来年からの恒例行事になりそうです。

そして帰省の際には必ず、竜王インターの近くにあるアウトレットパークに立ち寄るのですが、今回はフロアがかなり増設されており、アウトレット日本初出店（関西ではブランド自体初）という某ファストファッションブランドも入っていました。そんな中、私たち夫婦はテンションが上がってしまい、激安の服をこれでもかと買い漁ってしまいました。今後はしばらく、ワンコインランチが続きそうです。

底地・居付き、買います。

株式会社サンセイランディック 大阪支店

〒550-0012 大阪市西区立売堀 1-2-14 本町産金ビル 9F

TEL : 06-6532-8830 FAX : 06-6232-8831



底地くん

